

## 令和5年度 第11回理事会議事録

公益社団法人日本ホッケー協会

1. 日 時 令和6年1月27日(土) 13:00開始
2. 場 所 JSOS、オンライン (Zoom) 併用
3. 出席者 理事18名中、16名(開会時点出席15名、  
途中出席1名)、監事2名

(理事) 三須 和泰、北野 妙子、石川 伸男、仁賀 建夫、中村 真理、  
永井 祐司、平尾 豊、奥田竜子、柿田 亜矢子、奥田 好廣、  
安枝 和子、久保 克敏、箸本 明雄、埴岡 隆、小林 真由美、  
(途中出席) 多氣 洋平

(監事) 花野 信子、清水 美音子

#### 4. 開会宣言

定刻、吉満事務局次長が開会を宣言した。

#### 5. 定足数の発表

(1) 吉満事務局次長が、理事18名の内15名出席しているので本理事会は定款第39条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。また理事以外として、財務総括部内山副部長の出席、及びオブザーバーとして正会員・有識者代表のHJL 真チェアマンの出席が報告された。

(2) 定款第38条に基づき三須和泰代表理事が議長に選出された。

(3) Zoomでの出席者の音声即時に伝わり、一同に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いに出来る状態となっていることが確認された。その後、議題の審議に入った。

## 6. 審議事項

### ① 第一号議案 役員候補者選考委員会の設置

石川専務理事から、役員候補者選考規程に基づき、役員候補者選考委員会委員候補として以下の7名を推薦すると、資料に基づき説明があった。

- ・三須 和泰 ((公社) 日本ホッケー協会会長)
- ・北野 妙子 ((公社) 日本ホッケー協会副会長)
- ・真 喜代司 ((一社) ホッケー・ジャパンリーグチェアマン・正会員)
- ・佐藤 正一郎 (秋田県ホッケー協会会長・正会員)
- ・右川 誠治 ((一社) 東京都ホッケー協会代表理事・正会員)
- ・花野 信子 ((公社) 日本ホッケー協会監事)
- ・植田 実 ((公財) 日本テニス協会・常務理事)

審議後、議長から本議案について承認を求めたところ、異議無く承認された。

### ② 第二号議案 加盟団体規程の改定

箸本理事から配付されている資料に基づいて説明が行われた。役員選考規程と平仄を合わせるため、第7条第1項の「各団体1名」の記述を削除すると説明があった。

審議後、議長から本議案について承認を求めたところ、異議なく承認された。

### ③ 第三号議案 ホッケーの日の制定について

仁賀本部長から、アンケート調査結果を配付されている資料に基づき説明が行われ、11月23日を「ホッケーの日」と制定したいと説明があった。

審議後、議長から本議案について承認を求めたところ、異議なく承認された。

### ④ 第四号議案 利益相反取引の件

内山財務総括副部長、中村本部長から、利益相反管理規程に定める利益相反取引に該当する2件について、配付されている資料に基づき説明があった。

平尾理事から、返礼記念品の案件については、デザイン案が2つあったのであれば、利益相反取引である以上、記念式典実行委員会の長である仁賀本部長とも協議をしてから、採択するべきであるとの意見があった。その場で2案が提示され、仁賀本部長も了承した。

審議後、議長から本議案について承認を求めたところ、異議なく承認された。

## 7. 報告事項

### ① パリ五輪最終予選報告

さくらジャパンのジュード HC、永井本部長から、パリ五輪最終予選について報告があった。

三須会長からは、世界のチームの実情を知る良い機会で FIH や他チームと話ができて有益だったこと、男女合わせてアジアからは3ヶ国しか五輪に出られない、これから資金集めに努めたい等の説明があった。安枝理事から、競技役員として、T0＝西澤英一郎さん、審判＝山田恵美さんがオリンピックに選出されたとの報告があった。

真チェアマンからは、さくらジャパンはこれまでの殻を破った。メダルを目指してほしい。R6 年度予算はさくらジャパンに多く配分すべきとの意見があった。

### ② R5 年度収支見通しと R6 年度当初予算

内山財務総括部副部長から、配付されている資料に基づき、R5 年度収支見込み、R6 年度収支予算案について説明が行われた。平尾理事から JSC 補助金について、何故これらの大会を補助金の対象にしたのか？ インカレや全日本男子選手権については大井競技場の費用がかかるからだと思うが、それであれば大井競技場の大会補助金という形にしてはどうか？ またマスターズ JC について、フィジオやカメラマンの費用を大会費に入れるのはおかしいとの意見があった。内山副部長から、JSC 申請締切りが 1/19 だったので一部関係者と相談して急いで申請した。マスターズ JC に

については経費負担の見直しをすると説明があった。真チェアマンから、予算書というのは事業計画書と表裏一体だと思うが、現状の JHA の状況からみて来年度は非常に厳しいということはみんな分かっていると思う。他の事業を削ってでも強化、特にさくらジャパンの費用を出さないといけない、早急に事業計画を見直して新たな修正予算を出して欲しいとの意見があった。内山副部長から、他費用の削減と同時に協賛金も獲得していかないといけない。3/12 に内示のある JOC 助成金も重要。それらを総合的に勘案して3/20 の理事会で当初予算を諮る。方針としては強化の要望をできるだけ聞きながら全体収支ゼロの案を維持すると説明があった。

### ③100周年記念式典について

仁賀本部長から配付されている資料に基づき、式次第案、参加状況、式典収支予定、準備スケジュールの説明があった。

### ④アンチ・ドーピングについて

埴岡理事から、「ドーピング検査の厳格化とアスリートの権利擁護」の資料を説明。ドーピング違反について、暫定的な資格停止を JADA が該当選手へ伝えているが、弁護士を通じて期間短縮を要請している。聴聞会（第三者機関）で検討するが、JHA として2024年度の登録はどうするのか意見をもらいたいとのことであった。

平尾理事からは、登録を認めるか否かは JHA が主体性を持って態度を決めなければならない。行動規範確認書は、大会毎に提出必要だが、今回は大会外である。JADA としては年間を通じた遵守を要請しており、おおもとなる基準というのは JHA として決めておかなければならない、との意見があった。箸本理事からは、事実関係を争うと選手の負担が大きい、いざ事案が発生してしまうと、JHA としてサポートすることは難しい。事案の発生を防止するような、平時における教育、啓発等の活動であれば、JHA としての取り組みも可能であるがとの意見があった。花野監事からは、前提として選手の保護は重要ではあるが、JHA は公益社団なので、公益の観点から判断しなければならない。倫理規程では競技関係者の清廉性に関する疑惑や不信を招く行為は防止するという考えがある。ドーピングに対して公益社団としてどういう体制で取り組むかという前提に立った上で、個別の登録申請時の対

応を考えるのは良いが、疑惑があった選手中心で考えることは公益団体としては違うと思う、との意見があった。

埴岡理事から本日の意見を集約して JHA として規則違反事案への対応と登録方針を決めたいとの話があった。

⑤ 日本代表チーム HC 選考プロセス

永井本部長から、配付されている資料に基づき、今後の日本代表チーム HC 決定までのプロセス案について説明があった。次回の理事会でガイドライン規程の変更について提示するとの説明があった。

⑥ 2024 年度 国内競技大会開催予定（案）について

中村本部長から 2024 年度の国内競技大会開催予定について配付されている資料に基づき説明が行われた。「SOMPO JAPAN CUP」については、今後、日程を調整することになった。

またインドアホッケーについては、2024 年度から強化育成本部に移管し、来年度は公式な大会には参加しないと説明があった。平尾理事から U12 ホッケーオールスター戦の開催要項には予算書をセットにして共有いただきたいとの意見があった。

⑦ 加盟団体からの資料徴求について

石川専務理事から、加盟団体規程の第 9 条（届出義務）に基づき、加盟団体から役員名簿他資料を今年度中に提出してもらう予定と説明があった。

⑧ 協議会報告と「総会後の取り組み」

石川専務理事から、令和 5 年 12 月 31 日に一部の協議会メンバーから、「公益社団法人日本ホッケー協会の今後の運営について」という件名での文書を受け取ったが、その後 1 月 9 日に開催された協議会で協議の結果、「総会以降の協会運営の取り組みについて」としてまとめた文書を正会員に配付することになり、その文書案の説明があった。真 HJL チェアマンからは、文書の配付には賛成であること、FIH、JOC その他の関係団体に対するロビー活動も積極的にお願いしたい、との意見があった。

⑨ イベント案件に関する処分について

奥田竜子理事、箸本理事から、職員の就業規則違反疑義についてコンプライアンス委員会で事実確認調査を行い、倫理委員会、査問委員会で審議を行った結果、就業規則に基づき、職員への処分案を策定したとの報告があった。平尾理事から、査問委員会の立ち上げ方、及び対象職員の管理監督者への処分に関して質問があったため、再度、倫理委員会で議論した上で報告すると、三須会長から説明があった。

⑩ 能登半島地震の寄付について

真チェアマンから、HJL として能登半島地震に対する寄付を募ることとした。明確な目的を持ってどこに寄付するのかを決めた方が良いと考えている。HJL と JHA が連携した方が効果は大きいと思うので一緒に提案したいとの意見があった。三須会長から事務局で検討すると回答があった。

以上をもって議事の審議を終了し、議長は 16 時 30 分、閉会を宣言した。